

学園テーマ「東海医療学園のブランド力を高める！」

重点目標

- I. 魅力ある学校づくりの推進
- II. 地域に貢献し、愛される学園を目指す
- III. 学園の運営基盤を強化する

評価 3: 優れている 2: 適切 1: 改善が必要

評価項目	成果と課題	評価	学校関係者評価および次年度の取り組み
1. 教育理念・目的・人材育成像	学校案内、ホームページ及び学生便覧等において、教育理念・人材育成像、ならびにアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーを学校の内外に向けて明示し、理解に努めた。 「教職員の誓い」をパネルにし、1号館玄関ホールに掲げた。	3	「教職員の誓い」を掲げたことは好ましいことであり、誓いの下学生支援に努めてほしい。今後は学校経営計画も公開してほしい。
2. 学校運営	学園テーマ、重点目標達成に向けて基本方針を定めるとともに学校経営計画を立案。全体会議等を通じて教職員の共通理解に努めた。2年度は新型コロナウイルスの影響により、計画どおりの業務執行には至らなかった。 年度初めの約2か月間休校とし、この間、教職員の一部はテレワークとし、授業開始に備えて「感染防止対策マニュアル」を作成した。 授業や実習については静岡県の感染動向に注視しつつ、全て対面で実施することができ、教職員・学生含めひとりの感染者も出さずことなく年度を終えることができた。	3	地方とはいえ、適切な新型コロナウイルス感染防止対策のもとに対面授業を行い、感染者ゼロに抑えたことは大いに評価できる。 感染症対策を継続し、安全を重視した学校運営に努めてほしい。
3. 教育活動	1) カリキュラム 教材「プロフェッショナリズムとリスク管理」が完成し、教育課程編成委員会にて質の高さが評価された。また、あま指の外部評価に備える目的であん摩実技動画を作成した。学生への動画配信についてはGoogle classroom等を活用する予定で準備を進めた。 2) 分かりやすい授業への取り組み 教員による自己点検評価、学生による授業評価、校長等による授業参観及びフィードバックにより授業の改善向上に努めた。 3) 適切な成績評価	2.75	「プロフェッショナリズムとリスク管理」や実技動画などの教材づくりに努めたことを高く評価する。 今後は、これらの教材によって、どのような成果がみられたかを検証し、改善につなげてほしい。 また、鍼灸の実技動画の制作や、これら動画の一般公開も検討してほしい。

<p>3. 教育活動</p>	<p>単位認定、進級・卒業認定等の基準を定め、これに基づく適正評価に努めた。試験においては必要度・難易度から十分吟味した問題の作成に努めた。</p> <p>4) 教職員の資質向上 静岡県職業教育振興会主催の新任教員研修会に参加し、資質向上に努めた。 また、学園教職員研修会を開催し、学校経営計画の在り方や学生募集等に関する改善策などについて学んだ。その他、関連学会および各種セミナー等に参加し、資質向上に努めた。</p> <p>5) 臨床実習 当初計画していた施術所実習、地域住民を対象としたあん摩臨床実習、ならびに介護保険施設の見学を中止としたが、教職員を患者とした臨床実習を実施し、施術者としての態度・技能の向上に努めた。</p> <p>6) その他の教育活動 球技大会、学園祭、解剖見学実習、特別授業、ゼミ等の教育活動はすべて中止とした。</p>		<p>教員による自己点検評価、学生による授業評価、校長等による授業参観などを、継続して実施し、授業の改善向上に努めている姿勢を評価する。</p>
<p>4. 学修成果</p>	<p>進級率・卒業率の維持向上のため、面談による問題発見・助言に努めたが、中途退学者は7名であった。(健康上の理由・成績不良) また、期末試験後の学習サポートに努めた結果、留年者は1名であった。</p> <p>年間を通じて国家試験対策授業の実施など合格率向上に努めた結果、あん摩マッサージ指圧師試験 100%、はり師試験 87.5%、きゅう師試験 93.8%であった。</p> <p>(公社) 東洋療法学校協会による実技評価を受け、受験者全員が合格した。</p> <p>日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定試験について、令和元年度理論試験合格者2名が昨年度延期となった実技試験を受験し2名が合格した。</p> <p>令和2年度理論試験に1名が合格、既卒生含め2名が実技試験を受験した。</p> <p>JATI 認定トレーニング指導者資格試験に2名が受験し、2名が合格した。</p>	<p>2</p>	<p>中途退学者をいかに少なくするかが課題である。成績不振者には、今後さらなる支援の手を差し伸べることを望む。</p> <p>成績評価は重要であるが、長期的視野に立って成長を支援することも大切である。</p> <p>精神的影響から体調を崩す学生に対して、臨床心理士との連携を図り、サポートする体制が構築できていることは心強い。</p> <p>今後は、早期問題発見と対応による中退防止に努めてほしい。</p>

<p>5. 学生支援</p>	<p>1) 進路相談</p> <p>①外部講師による3年生対象の就職セミナー(マナー、履歴書の書き方、職場訪問の仕方など)、企業を招いての就職ガイダンスは中止とした。</p> <p>②上記のイベント等が開催できなかったため、個別対応に重点をおき、進路活動を支援した。</p> <p>③令和2年度の求人件数は159件であった。令和元年度は207件であり、前年度比23%減となった。コロナウイルス感染症の影響が原因となっていると思われる。</p> <p>2) 健康管理</p> <p>学校保健安全法に基づき、学生および教職員の健康診断を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため年度初め約2か月間休校としたほか、登校時の検温と手指消毒、施設内の清掃および消毒の徹底、学生にはマスクや消毒用アルコールの配布等を行い感染防止に努めた。また、B型肝炎予防接種を実施、実習および将来の業務による感染防止に努めた。</p> <p>3) 生活相談</p> <p>①日本学生支援機構奨学金(高校新卒者に対する予約採用、在学採用、社会人に対する在学採用)に関する相談、貸与申請、継続手続きなどの支援に努めた。</p> <p>②期限までに授業料等納付困難な学生に対し、分割納付を助言、指導した。</p> <p>③校友会奨学金制度に基づき、対象学生に給付した。</p> <p>④令和2年度4月より施行された、高等教育の修学支援制度の認定校になったことを受け、対象者5名(1年生4名、3年生1名)に対し申請手続きの指導等を行い、制度を利用した。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の影響により生活状況が悪化した学生に対する「学生支援緊急給付金」制度を活用し、該当学生への支援を行った。(対象者は7名)</p> <p>⑥臨床心理士による学生相談を実施、学習や生活についてのサポートに努めた。</p>	<p>3</p>	<p>コロナ禍にあつて、「感染防止マニュアル」を作成し、校内の清掃や消毒、登校時の検温、マスクや消毒用アルコールの配布など、教職員が一丸となって感染防止に努めたこと、</p> <p>また、このような状況の中で、進路相談・指導が適切に行われたことを評価する。</p> <p>経済的支援の方策として、在学中の費用について企業から支援を受け、卒後に支援した企業に就職するような支援を検討すべきではないか。</p>
----------------	---	----------	---

	<p>4) 卒後教育 付帯教育である卒後臨床専攻コースに4名が進み、研修を修了した。 校友会研修会は動画配信。鍼灸臨床実技セミナーは一年間延期とした。</p>		
<p>6. 教育環境</p>	<p>1) 施設・設備の構造・面積等を法令に準拠している。 2) 図書室に飛沫防止のためのパネルを設置した。 3) その他、教具・図書等の充実に努めた。 各階に防犯カメラを設置、防犯・安全対策に努めている。 非常放送設備等の定期点検を実施した。 4) 1号館4階教室の床の張替え、1～2階トイレの改修等を行った。</p>	<p>2.75</p>	<p>施設設備の改修が適宜行われているようで、基本的な環境整備がなされている。 今後は、ICT教育の下で育った学生が中心となることから、ICT教育の機器備品の整備とともに、教員のリテラシーを高めていくことが必要である。</p>
<p>7. 学生募集 および 受け入れ</p>	<p>アドミッションポリシー及び学生募集要項に基づき、適正に実施している。 定員充足率は87.5%であった。 1) 本校の情報を、適宜学校ホームページやSNS等で発信した。また、コロナ禍にあってオンラインガイダンスという新たな情報発信に努めた。 2) オープンキャンパスを開催し、本校の魅力発信に努めた。 高校生対象のAO、推薦入試説明会も昨年より継続して実施し、また、夜間における学校説明会の開催日数を昨年度より増やして開催した。 3) 業者主催による進学相談会（会場型、高校内）は、前期は殆どが中止、後期についても例年の1/3程度に減少した。高校訪問については、訪問先状況に応じて実施した。 4) プレスクールは4回の実施予定を2回に変更。感染症対策に努めつつ、新入生同士のコミュニケーション、学習への意欲向上、基礎学力の把握等に努めた。また、保護者に対しても学習支援の説明・協力を求めた。</p>	<p>2.5</p>	<p>学生募集の在り方については、教職員や在校生だけでなく、卒業生や地域住民、さらには本校に関わるすべての人たちから、本校の良さを伝えてもらうことが課題である。 そのためには、地域の人たちとの交流や地域貢献活動を充実する必要がある。 コロナ禍で直接接触する機会が減少した穴埋めとして、オンラインガイダンスを実施して情報発信に努めたことを評価する。 プレスクールは、学習の準備状態をつくること、および「学びあう」態度や習慣を身につける上で重要である。今後も継続してほしい。</p>
<p>8. 財 務</p>	<p>健全な財務状況の保持と情報公開に努めている。 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。令和2年度においても定員充足を充たせなかったことによる収入減により、支出が収入を上回る状況となった。 会計監査は適正に実施されている。</p>	<p>2.5</p>	<p>健全な財務状況を保持すべく、学生募集と中途退学防止への努力を求める。</p>

<p>9. 法令等の遵守</p>	<p>専修学校設置基準、職業実践専門課程の規程、養成施設認定規則および同指導ガイドライン等の法令を遵守している。 前年度の学校運営について学校関係者評価を実施、その結果を公開した。</p>	<p>2.75</p>	
<p>10. 社会貢献・地域貢献</p>	<p>施術所の運営を通じて、市民の保健衛生の向上に寄与した。 昨年行われた熱海市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」、マリンスパあتامいで開催された「マスターズ水泳大会」は中止となった。 毎年小田原アリーナで開催されている「全国定時制高校バドミントン大会」、鹿児島国体は中止となった。近隣高校の部活動の現場実習を兼ねたサポートは継続している。 昨年度実施した地域中学生の職場体験、県内高等学校における出前講座などは全て中止となった。</p>	<p>2.5</p>	<p>地域に愛され、必要とされる学校として、さらなる貢献を望む。</p>

東海医療学園専門学校 学校関係者評価委員会

日 時 令和3年5月20日（金）16:00～17:30

場 所 東海医療学園専門学校会議室

出席者 学校関係者評価委員会

委員長 矢田 真樹 （校友会副会長・静岡県鍼灸学術研究会会長）

委 員 斉藤恭二郎 （公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会会長）

” 井出 啓之 （とがみえん児童クラブ理事長）

” 澁谷 哲平 （校友会副会長） ”

欠席者 中村 聡 （静岡県保険鍼灸マッサージ師会会長）

教職員 杉山 誠一 （校 長）

” 城 茂高 （事務長）

” 木村 博吉 （教務課長）

” 太田 一郎 （臨床センター長）

” 金川小百合 （AT コース長）